

## 「環境立国」の実現に向けて — 工業会への期待 —



(社)日本環境衛生施設工業会 副会長 **安元 豊**

(Hitachi造船株式会社 代表取締役専務取締役)

「環境の世紀」といわれる21世紀も既に3年が経過しました。

環境制約と資源制約が大きな問題となる中で、持続的な開発を目指して循環型社会構築と地球温暖化対策がキーワードとして示されています。

わが国ではこの3年間に、各種個別製品のリサイクル法やグリーン調達法の施行、廃棄物処理法の改正、循環型社会形成推進基本計画の策定などが行われ、循環型社会のイメージは広く社会に浸透してきました。また、各個人における大量生産・大量消費・大量廃棄型ライフスタイルの見直しや市場における環境経営の評価など、各界各層において環境意識は高まり、環境と経済が統合された持続可能な社会の実現に向けた基盤は着実に整いつつあるといえます。

一方で、依然として廃棄物の排出量は高水準で推移しており、最終処分場の残余年数は逼迫しています。悪質な不法投棄の増加や劣悪な処理施設などを巡る紛争は住民に不安を与え、廃棄物処理に対する不信感をつのり、施設立地が困難にな

るといった悪循環を引き起こしています。

(社)日本環境衛生施設工業会（以下、工業会）の正会員である我々プラントメーカーは、それぞれの能力と経験を最大限に発揮して優良な廃棄物関連施設を供給することで、廃棄物処理の信頼性を取り戻していかなばなりません。また、「環境立国」の実現に向け、高度な廃棄物処理技術やリサイクル技術の研究開発を推進するとともに、廃棄物の排出事業者の対場から、悪質な廃棄物処理業者の排除と優良な廃棄物処理業者の育成を通じて、不法投棄を撲滅していく責任もあります。

地球温暖化対策では、京都議定書の約束である第1約束期間に温暖化ガスの1990年比6%削減を達成するために、実効性かつ即効性のある対策を緊急に行う必要があります。地球温暖化問題の解決には国際的な取組みが必要ですが、京都議定書の発効を待つことなく各主体が責任を自覚した上で実行可能なことを確実に果たしていくことが重要です。我々は、廃棄物分野において新エネルギーに位置付けられている廃棄物の持つエネル

---

ギーの有効利用について、革新的な取組み、技術革新の促進と成果の普及に尽くしていかねばなりません。

これらの「環境立国」を目指す多くの取組みは、自然と共生する新たな経済社会構築に向けた世界で最初の挑戦であると考えられます。この世界に先駆けた取組みにおいて発生する様々な課題を成長要因に転換し、課題を解決するプロセスの中で新たな技術および温暖化対策ビジネスや循環型社会対応ビジネスなどの環境ビジネスを生み出していくことが期待されます。

このような状況の中で、廃棄物関連施設の健全な普及、環境技術研究開発の振興や環境ビジネスの展開に向けて工業会の果たすべき役割はますます重要なものになってきています。会員各社は、温暖化対策、循環型社会構築、安全安心な廃棄物処理など様々な視点から、廃棄物の再資源化、エネルギー回収および適正処理などに関する研究開発や事業展開を行っています。これら会員各社の活動を支援し促進するため、会員相互、国、自治体、関連諸団体、住民や異業種とのパートナーシップを構築するなど横断的な取組みが工業会に期待されます。工業会の活動は多岐にわたりますが、特に期待する活動について以下に列記いたします。ここに挙げる4つの活動は、従来の工業会活動の延長線上にありますが、「環境立国」の実現に向け、工業会としての役割・立場からよりいっそう積極的な展開を望むものです。

- ① 国内・海外諸団体との連携や情報交換を推進し、会員相互の議論を踏まえた上で、既存技術の整理・再評価や新技術の紹介・評価を行うことなどで、会員の技術力を向上させること。
- ② 廃棄物に関する情報の共有化・透明化を図り、国・地方公共団体・住民などへ情報を発信し、廃棄物処理に関する正しい知識を普及させること。
- ③ 国の施策などの行政情報を会員に速やかに知らせ、行政動向に沿った事業展開を推進すると共に、会員からの提言や要望を取りまとめ、工業会として国や関連諸団体に対し意見具申するなど、相互コミュニケーションのコーディネータとして機能すること。
- ④ 国・地方公共団体・関連諸団体などとの交流、そして工業会内の委員会・分科会活動等を通じて廃棄物・リサイクル分野において「環境立国」を支えていく人材を育成すること。

以上述べました活動を着実に展開し、工業会が「環境立国」の実現に向けた廃棄物・リサイクル対策の推進に貢献し、そして幅広く社会から信頼される公益法人としてますます発展することを期待します。

私も微力ではありますが、工業会活動のよりいっそうの充実と工業会および工業会会員の発展に尽くしてまいる所存です。今後とも、関係各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。